令和6年度　大田区立池上第二小学校　自己評価　報告書

○ 本校の概要　　令和7年2月7日

●児童数502名　学級数20(各学年3クラス及び特別支援学級2クラス)　教職員27名
●大田区の中央に位置し、住宅の多い落ち着いた環境の中にある。親子世代が池二小出身という児童が他校に比べて多く、地域に根差し、地域に温かく見守られてきた歴史と伝統がある。
●市野倉南町会、堤方東町会、中央八丁目町会の3町会との関わりが深く、PTAやおやじの会、保護者や地域の方による読み聞かせや調査のボランティア活動が活発である。
●今年1月、開校80周年の創立記念日にコミュニティスクールを立ち上げ、「地域の中の学校」として、保護者や地域に信頼される学校を目指している。
●学校経営の重点に「協育」「安心・安全で楽しい学校」を挙げ教育を進め、地域・家庭・学校が共に協力し、笑顔あふれる未来を創り出す人財（児童）の育成に努めている。
池二小の目指す児童像を**「いっしょに学ぶ　池二のチょイけりんこうなるとき　池二のチょイ　池二のチょ」**の合言葉として、「知」「徳」「体」のバランスのとれた児童の成長を促している。
今年度の校内研究では、次年度に本格実施される6段階目指す「おとなの未来づくり」の実施に向け、「地域の担い手」に焦点をあて、教材開発や地域との連携を推進している。
今までの校内研究で培ってきた授業のユニバーサルデザイン化や読書活動・家庭学習の取組を継続し、「基礎・基本を身に付け、主体的に学習に取り組む児童の育成」を推進している。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果と改善案　　児童調査（回答率：5月88%・9月94%）　保護者調査（回答率：1学期学校公開77%・2学期学校公開51%・教育活動79%）

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組状況	目標に対する成果指標	達成状況	これまでの取組 今後の改善策	評価	学校関係者記入欄 人数	コメント
生予測き測困る困目難標をな1育未成来し社会を創造的に	社会の様々な課題を自分事とし捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく資質や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学び・科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1	【児童】 ❶太田区調査 **「コンピューターやインターネットを活用して情報を集め、自分の考えをまとめたり発信したりすることができる。」** で肯定的回答をした6年生の割合 ❷学校生活アンケート **「出された問題を自分で考え解決したいと思う。」** **「友達と聞き合って自分の考えを深めたり広げたりしている。」** で肯定的回答をした割合 【保護者】 ❸教育活動に関するアンケート **「息が子はタブレット端末を活用して学習に取り組んでいる(1・2年生)」** **「知りたいことを調べることができる(3～6年生)」** で肯定的回答をした割合	4	4: 全て80%以上 3: 全て70%以上 2: 全て60%以上 1: いずれかでも60%未満	❶27%(★区の目標値60%) ❷「自分で考える」95% 「友達と話し合う」95% ❸1：2年生77%、3～6年生89% ①区独自教科「おおたの未来づくり」を校内研究に定め、コミュニティ・スクールを生かして民間パートナーを発掘し、協力を得て3・6年生の児童の協働的な学びを推進することができた。5年生では「誰もが楽しめる地域の公園」、6年生では「学校のPR動画の制作」を実施した。 ②「本物から学ぶ」を実現するために、地域の二外部人材を招聘して体験的な学習を実施している。また運動会の団体競技や六二フェスティバル、日々の授業で協働的な学びを推進している。 ③全校でタブレット端末を文房具として活用することに継続して取り組んでいる。管理職は児童がタブレット端末を活用する授業を全学級年3回以上参観し、教員の授業力の向上に努めている。	A		
お世界とお界とを目をつ指なぐ2うが人る材国を際都成市します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、異文化や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、並びに国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1	【児童】 ❶全国学力学習状況調査 **「英語の勉強は好き」** **「英語の勉強は大切だと思う」** で肯定的回答をした6年生の割合 ❷学校生活アンケート **「好き、興味的に英語を使うようなことを進んでしたり自分についたりしたいと思う(3～6年生)」** で肯定的回答をした割合 【保護者】 ❸教育活動に関するアンケート **「学校は、地域の施設や行事に積極的に参加したり、地域の特色を生かした教育活動を行ったりしている」** で肯定的回答をした割合	2	4: 全て70%以上 3: 全て60%以上 2: 全て50%以上 1: いずれかでも50%未満	❶「英語の勉強は好き」68% （★文部調査の平均38.9%） 「英語の勉強は大切」92% 「英語の授業は分かる」70% （★全国学力調査では4項目とも平均より高い） ❷80%　❸94% ①全学級でフォニックスを取り入れ英語に慣れさせている。5・6年生でイングリッシュキャラバン（お招聘した外国のネイティブとアクティビティを実施。次年度は児童全員の時間調整を年間17時間増やすとともに児童が楽しく取り組めるように授業を改善する。「難しくやっぱりどが好きではない」「もっと好きな教科があるというお児童の声が多い。GIGSの活用も検討する。 ②地域との連携は本校の伝統的な特色として大切に継続していく。引き続き地域行事への児童の参加を促したり学校として協力したりすることを通して、地域の様々な人々との関わりの中で郷土愛や他者理解を深めていく。 ③3年生以上の総合的な学習の時間にSDGSについて探究的に調べ学習を実施した。経済面の節約や節電について呼びかけたり「金フェス」にも出させたい内容にしたりした。次年度は地域の展覧会などに成果を発表したり開催べ一こと実践したいと。	A		
た一個め人目のひ目基と標級り3とがな個の性力とを能育力成を発揮する	児童・生徒が豊かな人生を生きていくことで基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①通信料を中心とした各教科等での学習などを通して継続的に連携教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1	【児童】 ●学校生活 「先生はあなたのよいところをほめてくれる」 「あなたには、よいところがある」 「運動をたくさんしたいと思う」 で肯定的回答をした割合 【保護者】 教育活動に関するアンケート 「我が子は、友達と関わったり、本を読んだりすることを通しての豊かに成長している」 「我が子は、宿題などの家庭学習に取り組んでいる」 「我が子は「早寝早起き朝ごはん」を実践しなどを活用して健康増進に取り組んでいる」 で肯定的回答をした割合	3	4: 全て80%以上 3: 全て70%以上 2: 全て60%以上 1: いずれかでも60%未満	❶「先生はほめてくれる」97% （★全国調査より6.7%高値） 「自分のよさがわかる」95% （★全国調査より10%高値） 「運動をたくさんしたい」93% ❷「心豊かに成長している」92% （令和6年度は全学年・6%低学年・6%） 「家庭学習をしている」90% （令和5年度は全学年・6%・低学年・6%） 「健康増進の取組をしている」79% （令和5年度は全学年・6%・低学年・6%） ①各学期第1週目のエール通信をスタートに、全教員で児童の日々のささな努力や成長をほめ、自己肯定感を高めることに努めた。一人一役の当番活動などを日常的生かめる取組も全学級で実施した。「おはなしレコンパ」や上級書棚などの連携による読み聞かせも豊かの通信に寄与していると感じる。 ②家庭では低学年からの習熟度別や少人数での指導、補習教室、担任による「時間」などで進捗の定着に努めた。「タブレット」は単元ごとの復習が様々のペースで進められるように、声掛けや後の設定をした。漢字検定では、合格率の高い学級の取組を「漢検点の巻」として集約して全校生がは用した。 ③ロング昼休みや1校2取組（マラソン・短縮・長縄）、体力テストの集学年合同実施、運動会での団体競目や加算距離差の得点などにより児童の運動への意欲喚起に努めた。都の体力テストの総合点は昨年度の平均値比3.5ポイントと上回り、東京都比24.83ポイント高値。「筋深呼吸体操（ストレッチ）」で取り組んだ成果で長座体前屈は全学年・男女ともに東京都平均を大きく上回った。 ④週一度「年金の学習」に幼児教育センターから教員が派遣され、担任とともに指導に当たり連携を深め、指導に生かすことができた。	A		
学校別力目・標教4師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいやもちで働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいやもちで働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1	【児童】 ❶学校生活アンケート **「先生はあなたが分かるまで教えてくれる」** で肯定的回答をした割合 【保護者】 ❷学校公開アンケート **「こども同士が話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりしてたか」** **「授業の目標がよくわかるものであったか」** で肯定的回答をした割合	4	4: 全て80%以上 3: 全て70%以上 2: 全て60%以上 1: いずれかでも60%未満	❶**「先生は分からるまで教えてくれる」97%** **「難しいなら話し伴けあっていた」** **98%** **「授業の目標がよくわかった」100%** ①個別最適な学びの場面では自分の興味関心を生かしたり学習を選択したりできるように、協働的な学びの場面ではタブレット端末や思考ツールを活用して互いの考えを共有しながら学ばえを深める活動を積極的に取り入れた。 ②今年度の校内研究では、次年度から実施される区独自教科「おおたの未来づくり」のために地域教材の洗い出しや発掘を学年ごとに実施した。また年生で「誰もが楽しめる地域の公園」、6年生で「学校のPR動画の制作」の研究授業を実施した。 ③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	B		
た一個めの分目から目学し標びくら5をいい支き援いしきまとすき生きる	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図る。一人一人、すべての児童・生徒が自分らしく生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1	【児童】 ❶学校生活アンケート **「学校は楽しい」** **「学校には困ったときに相談できる大人がいる」** で肯定的回答をした割合 【保護者】 ❷教育活動に関するアンケート **「我が子は、楽しく学校に通っている」** **「学校は、こどもの悩ごや教育からの相談を受け止めて対応している」** で肯定的回答をした割合	4	4: 全て80%以上 3: 全て70%以上 2: 全て60%以上 1: いずれかでも60%未満	❶**「学校は楽しい」97%** **「困ったときに相談できる大人がいる」98%** **（★全国調査より4.1%高値）** **❷「子ども一人一人の学習・生活・健康状況の把握」「子どもの安全・安心の確保」「子どもの